資 料

コウモリマルヒメダニの人体 寄生 3 例について

上 村 清* 近藤力王至**

*富山県衛生研究所

(〒 930 富山市大手町 1-15)

**金沢大学医学部寄生虫学教室

(〒 920 金沢市宝町 13-1)

(受領：1976年12月24日)

Three cases of human infestation with a soft tick *Argas vespertilionis* s. l. in Japan

Kiyoshi KAMIMURA* and
Kaoru KONDO**

*Toyama Institute of Health, Otemachi
1-15, Toyama 930

**Department of Parasitology, School of
Medicine, Kanazawa University,
Kanazawa 920

ヒメダニ科 Argasidae (soft ticks) のダニ10余種は人を激しく刺咬し、回帰熱を媒介する熱帯での重要害虫で、レプトスピラ症、野兔病、Q熱、ロッキー山紅斑熱、コロラドダニ熱、ダニ脳炎なども媒介することが知られている。我が国にはコウモリマルヒメダニ *Argas vespertilionis* s. l., ナガヒメダニ *A. reflexus*, *A. japonicus*, クチビルカズキダニ *Ornithodoros caspensis*, サワイカズキダニ *O. sawaii* の4種が分布することが知られているが、人体刺咬症は加茂(1962)がコウモリマルヒメダニの乳児大腿上部吸着を1例報告しているにすぎず、きわめてまれなものと考えられていた。ところが、1974、1975年に富山市市街部でコウモリマルヒメダニ雌成虫による人体刺咬症を3例経験したので報告する。

症例 1

患者：田○時○，女子，43歳，酒店の主婦。住所：富山市丸の内1。初診：1974年5月15日。主訴：胴部異物感。

病歴：1974年5月15日朝，軽い搔痒感と胴部異物感のため，起床後直ちに点検，左中腹部肌上に弱く付着せる虫体を発見，除去する。一過性の搔痒感のほか特記すべ

き症状を認めず。なお，患者は以前にも数回本虫を人肌上や寝具上で見付けている。

虫体：体長4.4mm，体幅4.1mm，吸血残渣物多くあり。胴部がほぼ円形で，性門が顎体基部幅より大きく，第1脚基節が他脚のと分離している特徴からコウモリマルヒメダニ雌成虫 *Argas vespertilionis* s. l. (Latreille, 1802) ♀と同定された。

症例 2

患者：杉○春○，女子，24歳，鉄工所の主婦。住所：富山市堺町93。初診：1975年5月17日。主訴：左下腿前部搔痒感，異物形成。

病歴：症例1の患者宅2階に泊り，1975年5月11日朝，左下腿前部に吸着せる虫体を発見，直ちに摘出する。円形紅斑形成，遠心性に肥厚せる8mm大の丘疹から水疱を形成，膿疱となり2週間持続。富山市白銀町の寺田医院に通院し，抗ヒスタミン剤の内用・外用，副腎皮質ホルモン含有軟膏の外用を行いしも搔痒感3カ月持続，16mm大の色素沈着褐色斑1年間持続，時に搔痒感を生じる。

虫体：体長，体幅共に4.1mm，吸血残渣物あり。*Argas vespertilionis* s. l. ♀と同定された。

症例 3

患者：高○岳○，男子，10歳，学童。住所：富山市泉町2。初診：1975年7月20日。主訴：左腋下異物感，左腕部搔痒感。

病歴：1975年7月6日朝，搔痒感と左腋下異物感のため起床後点検，左腋下に弱く付着せる虫体を発見，除去する。左前腕部紅斑，4mm大の水疱形成1週間持続。搔痒感残存。

虫体：体長3.8mm，体幅3.7mm，吸血残渣物あり。*Argas vespertilionis* s. l. ♀と同定された。

免疫学的検査成績：吸血残渣物をヘマトクリット毛細管に吸い上げ，寒天ゲル内沈降反応を行ったところ，抗人全血清，抗人アルブミンに明確なる沈降線を形成した(上村・近藤，1976)。

考 察

症例1，3の患者は虫体が弱く人肌上に付着しているにすぎなかったが，症例2では明らかに吸着し吸血中であつた。また，症例3も抗人血清に免疫学的に陽性で，人血残渣物であることを否定できなかった。症例2，3は皮膚反応が著しかったが，症例1は弱かった。これはコウモリ吸血後に本虫が偶然人体上を彷徨していた可能性もないではないが，患者は以前に付着歴を有することから何回も刺咬されて免疫現象を呈していると思われる。

いずれの患者も2階で寝泊りし，朝に付着に気付いている。付着当時は患者達は富山市の都心部に居住してお

り、郊外に出ていない。ヒメダニ成虫は夜間短時間の吸血を行う習性のため、富山市市街部の人家内で寄生されたものと思われる。症例1の患者宅には2階壁板内にアブラコウモリ *Pipistrellus abramus* Temminck が多数営巣しており、夕方に入出入することが認められた。したがって、症例1、2の患者はそのコウモリに寄生していたものが偶然人を吸血しに来たと考えられる。症例3の患者宅ではコウモリ類の営巣を確認できなかったが、付近で夕方コウモリが乱舞しているので、コウモリ寄生の本種に自宅かその付近で寄生されたと思われる。近年、富山市の市街部でアブラコウモリが非常に多く、人に屋根裏の棲息音による気味悪さを与え、排糞による汚染や人家内を飛行することなどで駆除できないかとの相談が持込まれている。人畜共通感染症の伝播は不明であるが、不快感に止まらず、このように人に激しい炎症を起すダニが寄生していることは問題である。

ご教示をいただいた農林省家畜衛生試験場北岡茂男博士、国立科学博物館浅沼靖博士、埼玉医科大学山口昇博士に深謝する。

文 献

- 上村清、近藤力王至(1976)：北陸地方におけるマダニ類の人体寄生例Ⅱ。コウモリマルヒメダニ。衛生動物、27：71。
 加茂甫(1962)：日本におけるダニ類の分布と病害に関する研究。(8)西日本の寄生ダニ類。37年度文部省研究報告集録(医学及び薬学)：173。
 近藤力王至、吉村裕之、上村清、米村大蔵、河崎一夫、藤波美代子、山田清夫(1976)：北陸地方でみられたマダニ類の人体寄生例。日本医事新報、2725号：29-31。

資 料

タカサゴキララマダニなど3種マダニの人体寄生4例について

上村 清* 近藤力王至**

*富山県衛生研究所

(〒930 富山市大手町 1-15)

**金沢大学医学部寄生虫学教室

(〒920 金沢市宝町 13-1)

(受領：1976年12月24日)

Four cases of human infestation with three tick species *Amblyomma testudinarium*, *Ixodes nipponensis* and *I. ovatus* in Japan

Kiyoshi KAMIMURA* and

Kaoru KONDO**

*Toyama Institute of Health, Otemachi
1-15, Toyama 930

**Department of Parasitology, School of
Medicine, Kanazawa University,
Kanazawa 920

タカサゴキララマダニ *Amblyomma testudinarium* Koch の人体刺咬症は我が国では過去7例ばかり報告され、うち4例は肛門部に寄生していた(木船・弓削, 1971; 影井・木畑, 1974; 山本ら, 1976など)。タネガタマダニ *Ixodes nipponensis* Kitaoka and Saito は過去ほぼ7例報告されており、うち6例は胴部に寄生していた(山根ら, 1973; 山口, 1977など)。また、ヤマトマダニ *Ixodes ovatus* Neumann は過去22例ばかり報告され、うち9例は上眼瞼部に寄生していた(近藤ら, 1976; 山口, 1977など)。ここではタカサゴキララマダニの左足趾間部と左前腕部内側寄生の2例、タネガタマダニの亀頭部寄生1例、ヤマトマダニの左上眼瞼部寄生1例について報告する。

症例 1

患者：上○清○，男子，29歳，学生。住所：大阪府豊中市桜塚本通 4-61。初診：1966年6月12日。主訴：左足第4・5趾間部異物形成。

病歴：1966年6月11日，大阪府能勢郡宿野町青少年野